

平成14年版



原子力安全白書



原子力安全委員会 編

原子力安全委員会の活動



原子力安全委員会の審議風景

原子力安全委員会では、原子力安全全般について調査審議を行っています。定例会議は毎週月曜日14:00から、臨時会議は木曜日14:00から行われます。

原子力安全に関する理解の促進



第6回 福井市における原子力安全シンポジウム

原子力安全に関する地域の声の把握に努めるとともに、原子力安全への取り組みなどについての理解を深めることを目的として、原子力発電所立地地域を中心に、各地において原子力安全シンポジウムを開催しています。



安全目標パネル討論会

「原子力はどのくらい安全なら十分か」を定量的に示すために、原子力に関する活動による発生するリスクを定量的に示す安全目標の策定に当たり、国民の皆様の御意見を参酌し、適切にこれに反映していくために、安全目標パネル討論会を開催しました。



原子力公開資料センターの運営について

国民の方々に、原子力について正しく理解していただくためには、情報の公開がきわめて重要です。「原子力公開資料センター」においては、原子力安全委員会関連資料、原子力委員会関連資料、放射線審議会関連資料等の原子力に関連する資料が公開されています。

(連絡先：〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎ノ門三井ビル2階 電話番号 03・03509・6131)



原子力安全委員会の刊行物

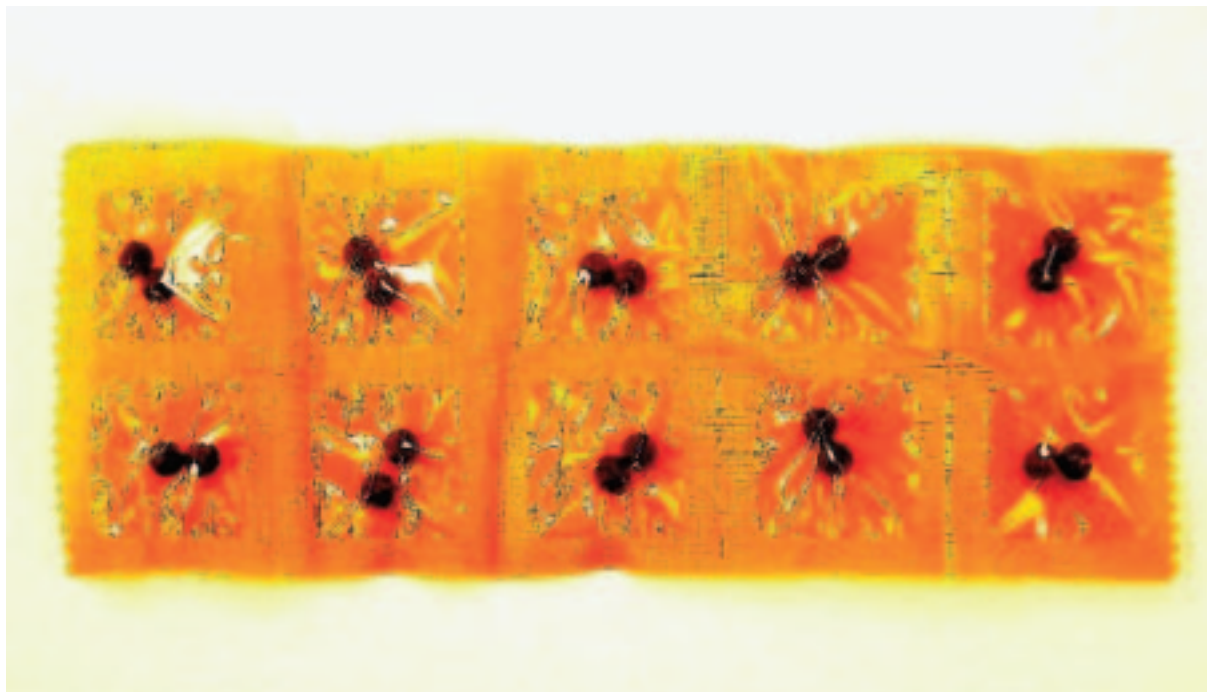
ダブルチェックの客観性・合理性を高めるために、審査の基準となる安全審査指針類を策定し、運用しています。また、原子力安全委員会の月報「Safety & Dialog」や紹介パンフレットなど、国民の皆様に原子力安全委員会の活動をより広く知っていただくための刊行物を発行しています。

実効性のある原子力防災体制の実現



茨城県原子力オフサイトセンター

原子力災害が発生したときには、住民の安全確保、原子力事業者による応急対策、事故の状況把握と進展予測、住民等への医療措置、避難住民への支援等様々な応急対策が必要となります。このため、国、県、市町村、原子力事業者、その他防災関係機関及び専門家等様々な関係者が一堂に会して、情報を共有するとともに、応急対策を決定するための拠点となる施設がオフサイトセンターです。



安全ヨウ素剤

原子力災害により放射性ヨウ素が大気中に放出された場合、これを吸入すると甲状腺に放射性ヨウ素が蓄積され、甲状腺がんが発症する可能性があります。これを防止するために使用される安定ヨウ素剤に関して、予防服用の際の線量の基準、服用対象者、用法等を具体的に定め、より実効的な防災活動を実施することとしています。

規制調査の実施



規制調査の実施

原子力安全委員会は規制行政庁の後続規制活動を監視・監査し、不断の改善・向上を促すことを目的として、客観的、中立的な立場から独自の調査を行うとともに、必要に応じて予め原子力安全委員会の意見や見解を示しています。

実効性のある防災訓練の実施



原子力総合防災訓練（平成14年11月7日）

福井県で実施された原子力総合防災訓練の様子です。上段が現地での写真、下段が原子力安全委員会委員長室におけるテレビ会議の写真です。

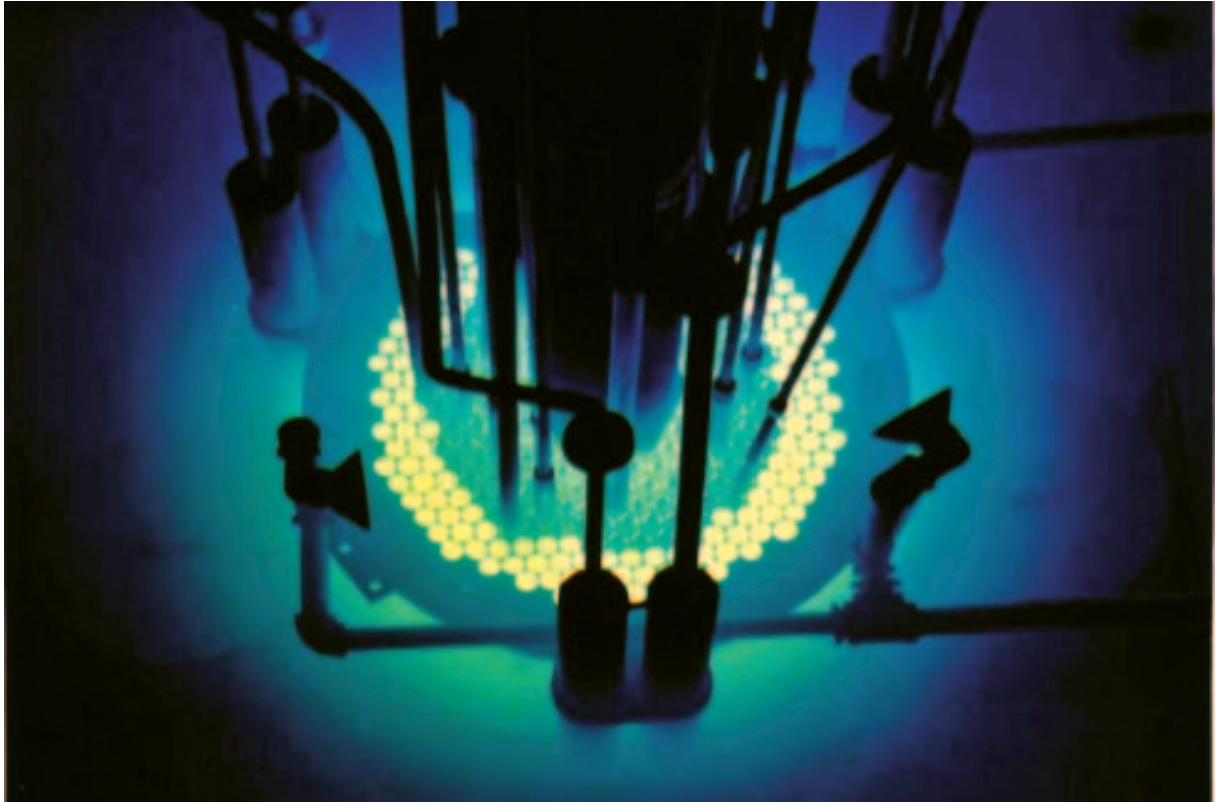
安全文化の醸成・定着



安全文化意見交換会

原子力安全委員会では全国の原子力施設において、原子力安全委員会委員長と、現場の技術者達との安全文化の重要性等に関する意見交換を実施しています。良好事例等に関する体系的な調査など、安全文化についての幅広い検討を継続的に実施しています。

安全研究の推進

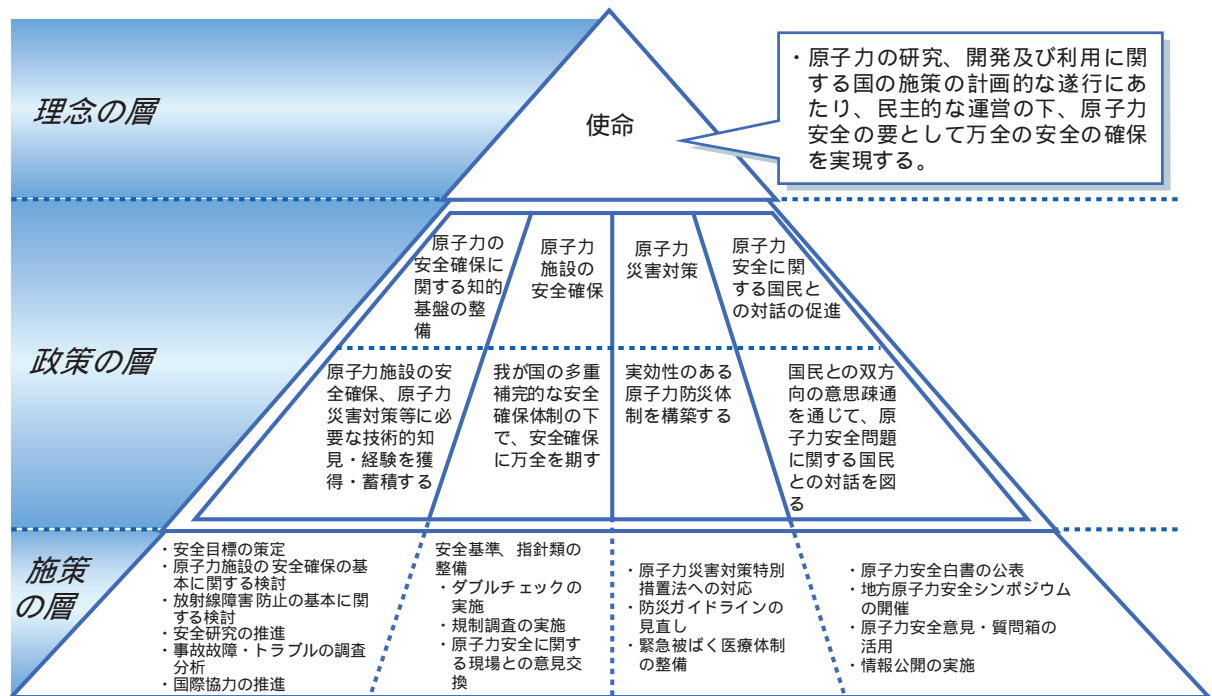


日本原子力研究所の燃料安全研究

日本原子力研究所の原子炉安全性研究炉（NSRR）では、反応度事故を中心とした事故時の原子炉燃料の安全性に関する系統的な実験を進められてきています。これらの実験により、原子炉の安全評価に必要な燃料の破損しきい値や破損の影響を評価するためのデータが得られ、原子力安全委員会による安全評価指針の策定に大きく貢献しました。

上の写真は、NSRRの炉心部を上から見たもので、反応度事故を模擬したパルス運転により炉心が青白く光って見えます。

原子力安全委員会の政策体系



原子力安全委員会の政策評価

外部の学識経験者が第三者的立場から原子力安全委員会の実施政策の評価を行っており、今後の政策に反映しています。